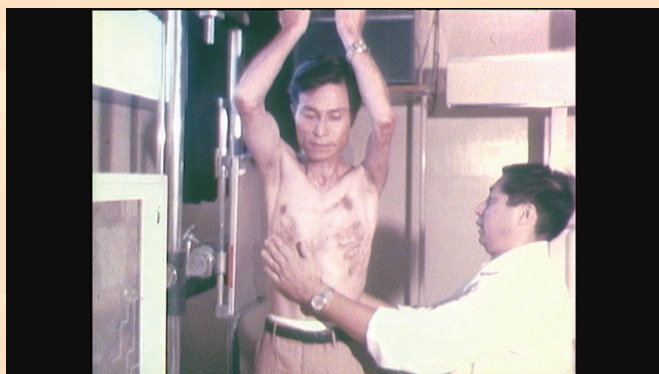




1975 年芸術祭大賞受賞

「もう碑は建たない」

長崎原爆の意味するものは一体何であったのか。この疑惑に対する解明を怠ったまま、加害国と被爆国はその隔たりを強めてしまった…。被爆30年の年にアメリカを取材。長崎原爆の特殊性を訴え、当時、国内的主張にとどまっていた原爆問題を、全人類的視野にまで広げた作品。

2024 年民間放送連盟賞出品作品

「夏空の灰～被爆体験者は何者か～」

『被爆体験者』…国が定める被爆指定区域外で被爆、原爆放射線の影響はないとされる人々。広島では指定区域外で「黒い雨」にあった人も被爆者と認める判決が出され、2022年7700人を超える人々が新たに『被爆者』となったが、長崎は未だ認められていない。被爆体験者訴訟の原告団長・岩永千代子さんの取材を通してその格差と矛盾を追及する。

2006 年地方の時代映像祭特別賞受賞作品

「広島・長崎を伝えたい ある市民ジャーナリストの軌跡」

元長崎放送記者・伊藤明彦さん。ラジオ番組「被爆を語る」を担当していたが、異動を機に退社。アルバイトでなんとか生計を立てながら全国各地を訪ね歩き、個人で被爆者の証言を録り始めた。その数1003人。さらに、その証言をまとめる編集作業に入る…。ひとりの市民ジャーナリストが執念ともいえる気迫でCDを完成させる軌跡を追った。



船山忠弘氏

「もう碑は建たない」取材記者

1938年長崎市生まれ。7歳の時疎開先の長与村（当時）で被爆。長崎放送記者として被爆証言や核問題の取材・番組制作に携わる。退職後、長崎平和推進協会副理事長・「平和への誓い」代表者選定審査会会長など歴任。2017年長崎市功労表彰（平和部門）受賞。



横山照子氏

被爆者代表

1941年長崎市生まれ。終戦直後、疎開先から自宅に戻り4歳で入市被爆。父は爆心地から1.2キロの洲中学、母と妹は4キロの自宅で被爆した。31歳の時、「長崎原爆青年乙女の会」に入会し、今年4月会長に就任。昨年、日本被団協代表理事としてノーベル平和賞授賞式に出席した。



進行 塚田恵子

長崎原爆資料館 長崎市平和会館
長崎市歴史民俗資料館 統括施設長



古川恵子氏

「夏空の灰～被爆体験者は何者か～」制作者

2001年長崎放送入社。以来、被爆者、カネミ油症を継続取材している。「人間神様」（2014年日本民間放送連盟賞エンターテインメント番組部門・最優秀）、「夢とアブラ」（2023年日本民間放送連盟賞テレビ報道番組部門・優秀賞）など受賞多数。現在、報道メディア局専門局次長・記者・デジタル部門担当。



林田光弘氏

次世代代表

長崎市生まれ。2016～2020年ヒバクシャ国際署名のキャンペーンリーダー。2021～2023年度長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員。2023年に一般社団法人Peace Education Lab Nagasakiを設立、代表理事を務める。2025年からは明治学院大学国際平和研究所研究員。